DECEMBER 2006

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

Documentation No.4

ドキュメンテーション

インターンシップの報告
学生の声
BOOK REVIEW
教員より
活動報告

鶴田綾子・浅見祐子・山田千鶴・北村雅美・若林由縁・安田恒・満田　優
飯野琴恵・長塩諒子・波多野恵・小林沙知・平澤真由美（日本文学科）・田村洋一

■ インターンシップの報告

鶴見大学では 2004 年より横浜商工会議所主催の「横浜インターンシップ」が導入され、2005 年からは約３０社の企業にご協力いただき、大学独自の「鶴見大学インターンシップ」がはじまりました。

ドキュメンテーション学科では本年度より「特別実習」という正規の授業の中でインターンシップを実施することになり、この夏休みには１２名の学生が各企業で実際に働く体験をしてまいりました。この度ドキュメンテーション学科の学生たちがお世話になりました企業は以下の１１社（五十音順）です。誌面ながら、ご協力に深甚の感謝を申し上げます。

アイシス株式会社	株式会社アップ総合企画	川崎三菱自動車販売株式会社
株式会社神奈川新聞社	株式会社紀伊國屋書店	株式会社コスモス
株式会社志正堂	株式会社樹村房	株式会社セントラルシステムズ
第一印刷株式会社	株式会社ビット	

５月、６月には、会社の仕組みと仕事内容の理解、ビジネスマナーやビジネス文書の書き方の習得を目的とした事前指導を行い、実習に備えました。また、実習後は報告会へ向けて報告書の作成、プレゼンテーションの資料の準備、報告会の予行演習を行いました。

そして１０月３０日、学生たちを受け入れて下さった企業の担当者の方々をお招きし、報告会を開催いたしました。数ヶ月の間に急成長した学生の姿に目を見張りましたが、なによりも学生たちが自らの成長の手応えを感じ取ったようでした。来年度インターンシップへの参加を考えている２年生からも、「自分の知りたいこと、学びたいことをしっかりと持ってインターンシップに臨んでいるという意識の高さが伝わってきた」「先輩たちが経験してきた仕事はどれも簡単なアルバイトとは違って『職』ということを強く感じた」といった感想が聞かれました。（p2-p3 に関連記事）　（報告：伊倉 史人）

■ 川崎三菱自動車販売株式会社　2006.8.30-9.9

本当の仕事を体験

田村 洋一（３年）
Yoichi Tamura

いくつかのアルバイトを経験していたこともあり、インターンシップに参加することも働くことにはかわりないと思っていました。ですが、アルバイトとして働くことと、社会人として働くことでは、違うことを実感しました。

アルバイトでは、基本的には社員の方に言われたことを、言われた通りにやれば良く、仕事は与えてもらうものでした。一方、社員の立場として働くには、自分から積極的に仕事を探さなければいけないということを実感しました。

実習当初は、少し遠慮がちになってしまうこともありましたが、徐々に店長さんや営業の方々など、いろいろな方とコミュニケーションをとり、進んで仕事を見せていただいたり、わからないことを質問させていただいたりするようになりました。

はじめは、１０日間は長いのではないかと不安になりましたが、終わってみればもっと期間があればよかったと思いました。実習に参加したおかげで学校の授業とは違う、本当の仕事というものを体験出来ました。また、自ら考えて行動することのたいへんさと楽しさを同時に知ることができ、充実した１０日間になりました。

■ 株式会社志正堂　2006.8.1-8.18

変化した働く意識

長塩 諒子（３年）
Ryoko Nagashio

実習は、最初の２日間にオリエンテーションと研修、その後２日間を営業所にて各自営業同行を行いました。5 日目からは物流センターにて商品出荷実習、8 日目に印刷工場見学を１日行い、最後の２日間でディスカッション、社長インタビューをしました。

営業同行では１日に２人の営業の方に付いて営業先を回りました。他社の社内の様子なども知れるとても貴重な体験でした。移動中も営業の仕事をどのように感じているか等の質問をし、お話を聞かせていただきました。印象的だった言葉は、「信頼関係を築くには、まず自分の名前をお客に覚えてもらう事」でした。そこから自分の仕事を見てもらえるようになり、営業の幅を広げるためのアプローチが出来る重要なポイントになるとのことです。

物流センターでは、実際に出荷作業を体験し、物流の仕事は顧客を第一に考え、いかに効率をよくするかを常に考えているということを知りました。

インターンシップは、自分の考え方や興味のある業界を知るきっかけになりました。実習先で出会った方達や、社長が普段どんな仕事をしているかという話など、様々な立場の人の話を聞けた事が情報収集にもなり、私にとって一番良かったです。

この体験を通して、私自身の就職に対する意識も、働くという事のイメージができた事で変わり、就職活動を前向きに取り組んで行こうという意識になり、とても充実感がありました。インターンシップをしてよかったと思っています。

■ 株式会社コスモス　2006.8.21-9.1

自分から動くことの大切さ

鶴田 綾子（３年）
Ayako Tsuruta

商店街のお店のホームページを 2 件作成することが私を含めた実習生 3 人に与えられた仕事でした。ホームページの作成は、実際にお店の方と相談しながら進めましたが、2 週間という期日の中で、依頼主の要望を聞きだし、理想に近いものを作っていくためには、コミュニケーション力が必要だと気づきました。また、お客様のご要望を、自分たちが今持っている技術で実現させることもたいへん困難なことでした。

期日までに絶対完成させることが社会の常識であり、それが守れなければ仕事とはいえません。完成こそが一番大切で、計画をしっかりとたてることが重要だということを、初めて体験しました。

また、ホームページの作成中しながら、来客の対応も行いました。作業に集中しすぎたり、実習生の誰が対応するかでお客様を待たせてしまったりすることもありました。そうした失敗をしてからは、常に気を配りながら仕事をするようになりました。

実習を通して、私が一番学んだことは、何事も自分が動かないと何も得ることができないということです。実習前は、緊張と不安でインターンシップに参加したことを後悔していました。しかし、初日からその後悔は消え、実習最終日には、今日で終わってしまうことに寂しさを感じるほどでした。就職活動を控えた大切な時期に甘えの通用しない厳しい社会を肌で感じ、気が引き締まりました。本当にインターンシップに参加してよかったと思います。

■ 株式会社アップ総合企画　2006.8.21-9.1

使命感と責任感と

小林 沙知（３年）
Sachi Kobayashi

私がインターンシップに参加した理由は、社会人として働くということはどういうことなのか実感できるのではないか、何かを学ぶことで自分を見つめ直し、将来に役に立てる経験ができるのではないかと思ったからです。

実際にインターンシップを通して得たことは、使命感と責任感を持つことができたことです。それは単にアルバイトとして働くのではなく、社会人として仕事を与えられ、働くことができたからだと思います。

また、わからないことはすぐに質問するなど、働く上でコミュニケーションをとることは、とても大切なことだと実感しました。

実習前は漠然と働くことは、厳しくたいへんだというイメージがありましたが、この実習に行って、確かに働くことはたいへんだけれども、それ以上に仕事の面白さ、仕事を終えた時の達成感を味わえることを知りました。

自分の未熟さを痛感した経験でもありましたが、このインターンシップは今後の私にとってきっとプラスになると思います。今までの職業観も変わり、適性が少しずつ自分で見えてきたように思えます。

学生の声 ― コース選択に向けて―

２つの目標

宮川太陽（２年）
Hiroaki Miyagawa

私は「パソコンを使っての資料の処理を学ぶ」ということと、「自分が持っているコンピュータに関する技術を他の人に教えられるようになる」という２つの目標を掲げてこのドキュメンテーション学科に入りました。3 年次のコース選択ではその 2 つの目標を達成するために、コンピュータを主に使っていくデジタルドキュメンテーション・コース（DD コース）を選びたいと思っています。

パソコンでの資料処理では、高校生のときまでは遊び半分でワードなどを使って文書を作り、それを自分のWebページを作っていたときの知識を使いHTML文書に直していただけでした。しかし、最近専門授業を受けていく中で XML の方にも興味を持ち、来年は DD コースに入って、このようなマークアップ言語を使った資料処理を中心に学んでいきたいと考えています。

一方、自分の技術を人に教えたいという方では、現在教職課程の授業を取って教員免許の取得を目指しています。しかし、人に技術を教えるためには、まず自分がその技術をしっかりと学ばなければいけないので、DD コースに進み自分の技術を更に磨きたいと思っています。もちろん教職課程の方も、自分に不足していると思われるコミュニケーション能力などを身につけ、教員免許がちゃんと取れるようにがんばっていきたいです。

このように、私はこの学科に入るときに掲げていた 2 つの目標を達成するために DD コースを選び、将来へ向けてがんばっていきたいと思っています。

BOOK REVIEW

生活情報センター編『かながわのおかず　郷土の食材と料理』
（東京：生活情報センター　2006 年）

■学生諸君の自立のために

自立した生活をする時に大切なことは何だろうか。それは健康を維持することである。その為には食生活の充実が一番である。ファーストフードやコンビニ弁当ばかり食べていては体にいいわけがない。精神的にも良くない。だからといって難しい料理を作れというわけではない。自分の作った料理が、例え下手であっても、いかに美味しいか経験してほしい。日頃勉強の本ばかり読んでいる諸君！　たまにはこのような本を読んで生活を見直しては如何だろうか。　（岡田　靖）

＊鶴見大学図書館の請求番号は 596.21/K（開架・一般）

「くずし字」の存在

森谷 奈保子（２年）
Naoko Moriya

２年生も終わりに近づき、ついにコース選択をせまられる時期になりました。

私は図書館司書になりたい、と思ってドキュメンテーション学科の入学を決めましたので入学当初から図書館学関係の科目が多いライブラリーアーカイブ・コース（ＬＡコース）に進もうと漠然と考えていました。でも、入学してノートＰＣを貸与して貰ってから、講義や自宅でＰＣを使用しているうちに、もっとＰＣでいろいろな事が出来る様になったら楽しいと思い始めました。それによりコース選択に迷う様になってしまいました。

だけど今、散々悩んだ結果、私はやっぱりＬＡコースに進もうと思っています。決め手になったのは、やっぱり「本が好き」という気持ちと、そして「くずし字」の存在でした。

初めてくずし字を見たときは、こんなラクガキみたいな線の塊が本当に読めるようになるのだろうか、と絶望的な思いでした。実際まるで英語の筆記体のように文字と文字が繋がって書かれているものはさっぱり区別がつかないし、書き手によって全く文字の書き方が違うせいで判別できないと頭を抱えるばかりでした。でも、何度も何度も繰り返して読むうちに、次第に見た瞬間頭の中にスッと文字が浮かんでくるようになりました。

その時これがすらすらと読めるようになったら、過去の書物へ通じる道が開け、今よりもっと本に深く関われるようになれるのではないかと思いました。

コース選択に悩んだことは、私に改めて何を一番勉強したいのかを気付かせてくれました。

初級シスアドのススメ

荻田 大貴（３年）

１８年度の春に初級シスアド（システムアドミニストレーター）という国家資格試験に合格しました。シスアドとは、情報システムをシステムサービスの利用者側の立場から考えて、業務の効率を良くしたり、システムの構築を支援したりするというエンドユーザー・コンピューティングとして経営や業務に役立てる資格です。

将来 IT 企業、特にシステムインテグレーター系の会社でシステムエンジニア（ＳＥ）やプログラマ（ＰＧ）として働いてみたいと考えていて、その為には何かコンピュータ系の資格を取得しておいた方が良いだろうと思っていたところ、元木先生が初級シスアドの試験対策のクラスを開いてくださいました。志願者数名が集まり、テキストを揃え、元木先生の解説で理解を深めて、後は過去問題をひたすら反復して解き、試験に臨みました。

シスアドの試験は午前と午後の二部構成で、午前は基本問題が８０問、午後は応用問題７問。受験者が年間１０万人を越える人気の高い試験で、合格率は２、３割ほどです。難易度は１４種ある情報処理技術者試験の中では比較的易しい方です。最近ではこういった資格に対しての報奨金制度で手当てが貰える企業が増えてきていると聞きます。シスアドの勉強はこれから社会で働くときに、システム構築や業務改善、IT の利活用に役立つことだと思います。それに資格を持っているということで自信もつきました。

将来 IT 企業に就職したい、ＳＥ、ＰＧになりたいと考えているのに、履歴書の資格欄に普通免許くらいしか書けない人に、まずは初級シスアドの試験を受けてみることをお勧めします。

今度は１０月にセキュアド（情報セキュリティアドミニストレータ）という試験を受けましたがこれを書いているときにはまだ結果が分かっていません。合格していることを願っています。

「将来パソコンができれば色々な仕事に生かせるはず！」そう思い、このドキュメンテーション学科に入学しました。

この学科では、入学すると４年間一人一台ノートＰＣを貸してもらえます。私はコンピュータのことなど何も知りませんでしたが、授業では先生から「わからなかったら遠慮なく聞けよ」と声をかけていただき、授業もゆっくり丁寧に進めててもらえて、ちゃんと勉強についていくことができました。入学前に「入ることが決まったはいいけど、授業についていけるかな…」なんて考えてたのがなんだか滑稽に思えるほどでした。

もちろんこの学科の特色はコンピュータの授業だけではありません。図書館員の資格（司書）を習得するための授業があります。図書館の歴史や、普段何気なく利用している図書館の知られていない部分、図書館員に大切なことなどかなり深いところまで勉強できます。この授業もコンピュータの授業に負けないくらいに面白いのです。

授業以外では、大学生活にも慣れてしばらくした５月に、大学のすぐ側にある総持寺に一泊参禅会に行きました。「一泊二日でお寺に泊まって生活しましょう！」という行事ですが、普段ではなかなか触れられないような生活や、それを通じて考えたことがたくさんありました。

参禅会の後は、はじめての試験――緊張していてあまり覚えていないのですがそれなりにできたと思います。――を経験し、大学生最初の夏休みはアルバイトに明け暮れた生活を送り、秋には紫雲祭に参加しました。そして、もう一年が経とうとしています。右も左もわからなかった入学当時、気がづけば先生方とも親しく話をすることができるようになり、新しい友達もでき、授業にも慣れて……光陰矢の如し、月日が経つのはほんとに早いものだと感じています。

光陰矢の如し

佐久間 大（１年）
Dai Sakuma

― 大学生活１年目―

私がドキュメンテーション学科に入学して９ヶ月が経とうとしています。まだ理解できていない勉強内容もありますが、なんとか友人や先生に聞くなどして解決したりして学習してきました。９０分間の授業は濃い内容で、新しい発見が多くあります。先生も各専門分野で活躍されている先生方なので、知識量がとても多く、授業も個性が活かされており、勉強になります。３年生からライブラリーアーカイブ・コースとデジタルドキュメンテーション・コースに分かれますが、今学んでいる授業はその基礎になると思うのでしっかりと授業内容を身につけていきたいと思います。

また、私は弓道部に所属しています。弓道部は文学部と歯学部が一緒に活動しているので他学科の学生と交流できます。行事も多くなにかと忙しいですが、いろんな人と関わりあうなかで学んだり成長したりすることもあるのでやりがいを感じています。２年になると部活はさらに大変になるので来年は勉強と両立するのが課題です。

ドキュメンテーション学会では授業のほかに補習や学会なども年に数回あり、せっかく開かれるのならば今後に活かしていきたいと思い、できる限り参加しています。参加したことにより、さらに知識や関心が増えたと思います。これからもそういう機会があれば参加していきたいと思います。

これまで過ごしてみてまだ慣れない部分もありますが、充実した生活を送れるように努力していきたいです。

９ヶ月が経って

小澤 香苗（１年）
Kanae Ozawa

■ 教員より

デジタルライブラリアンを目指して

本学科教授　原田 智子
Tomoko Harada

ドキュメンテーション学科への志望動機として、「将来、司書になりたい」と思って入学してきた人は非常に多いようです。司書は図書館法に記載されているように、公共図書館に勤める専門職（profession）をいいます。専門職は、高度に体系化された専門知識や技術に基づいて利用者にサービスを提供できなければなりません。

インターネットが急速に普及したこの 10 年間に、図書館を取り巻く環境も急速に変化しています。目録や貸出などはコンピュータで管理され、データベースや Web 情報資源などを的確に活用してのサービスが求められています。すなわち、印刷物、CD や DVD データベース、無料や有料の Web 情報資源といった多様なメディアやマルチメディアデータベースが使いこなせるデジタルライブラリアンが必要とされているわけです。

積極的な情報サービスができるデジタル情報に明るいライブラリアンになるためには、図書館情報学の授業はもちろん、文学部らしからぬ本学科でのコンピュータ関係の授業はとくに重要になってきます。また図書館は情報収集だけでなく、情報発信も積極的に行っていく必要があり、「情報の基地」としての役割がますます求められています。そのとき、情報のプロとして必要になるのは、図書館情報学とデジタル技術のほか、主題知識と英語です。扱っている情報を理解するためには、主題知識が必要ですし、今日 Web 情報資源は国籍を問いません。インターネットにより世界的規模で情報を扱う時代だからです。

時代の要請にマッチしたデジタルライブラリアンになるためには、司書資格＋αを身に付けましょう。＋αを得るには学外で実施されている情報検索や情報処理、コンピュータ、ネットワークなどに関する資格試験にチャレンジすることだと思います。

入学時の初心を思い起こし、自分の夢に一歩近づく努力をしていきましょう。

金澤勇二さんを偲んで

昨年の見学会を調整して頂いた、情報保存研究会会長の金澤勇二様が逝去された。金澤さんは、長年マイクロフィルムの開発に携わり、学術資料の保存についての造詣も深く、この分野で学術界に空いた穴を長年埋めてこられた方である。金澤さんとは、以前、数億規模のプロジェクトで、一緒に働いたことがある。当時、会社が違っていたにも関わらず、金澤さんからは厳しい指摘を何度も受けた。普通、他社の人間を叱ったりすることはない。当初、金澤さんもわたしも、このプロジェクトのメンバーではなかった。プロジェクトが頓挫し、半年余り全く仕事が止まっていた時、両社からまとめ役として参加したのが金澤さんとわたしである。わたしは、かなり強引な手法で社内をまとめ、一度止まったプロジェクトを 3 ヶ月で元に戻したが、やはり仕事の内容は粗くなっていたのだと思う。そこを金澤さんに指摘された。言い訳は沢山あった。だが、仕事を進めるために必要な、客観的な指摘であることは、叱られながらよく判った。仕事で、これほど問題点を洗い出され、突きつけられた経験はなかった。自分の親でもここまではいえないだろうことも、随分いわれた気がする。しかし、嫌な気には全くならなかった。以前、当時を偲んで「戦友」といわれたことがあった。指導を受けっぱなしであったと思っていた自分には、とても嬉しい言葉であった。その金澤さんが、悪性腫瘍により本年 8 月 14 日に逝去された。本学科の非常勤もお願いしたいと考えていたので、本当に残念である。心から、金澤さんのご冥福をお祈りしたい。金澤さん、本当にありがとうございました。　（大矢 一志）

平成 18（2006）年 7 月 –12 月

ドキュメンテーション学科・学会活動報告

７月１５日（土）

卒業論文ゼミの説明会を開催

来年度、ドキュメンテーション学科は完成年度を迎え、４年生は各自ゼミに所属し、卒業論文の作成に取りかかることになります。今回の説明会では、７人の教員が主催するゼミの研究テーマ、ゼミの運営方法などが紹介されました。まだ、自分のやりたいことが決まっていない学生も多く、いろいろな質問がなされました。

８月２６日（水）

司書・司書補夏期講習共催
第４回鶴見大学デジタルライブラリー
国際セミナーを開催

米国農務省国立農学図書館館長の Peter Young（ピーター・ヤング）氏をお招きし、「デジタル時代における米国国立農学図書館のあり方（US National Agricultural Library in the Digital Age）」と題する講演をしていただきました。講演会後、氏を囲んで懇親会も催されました。

１０月３０日（月）

２００６年度インターンシップ報告会を開催

今年度「特別実習」を履修し、夏期休暇中にインターンシップに参加した学生たちによる報告会を開催しました。（1～3ページ）

１１月１０日（金）

卒業論文ゼミアンケートを実施

４月より所属するゼミのアンケートを実施しました。その後、教員との面談し、人数調整をした上で、学生各自の所属するゼミが決定しました。７月の説明会後、いろいろと考えてきた学生、最後迄悩んだ学生と様々でしたが、これから１年間努力して、是非とも納得のいく卒業論文を書き上げてもらいたいと思います。

１１月１３日（月）～1月３１日（水）

秋期情報リテラシー補習授業を開催

１年生を中心に補習授業を行いました。今回は「エディタを使った編集の基礎」「MS-Word を利用した入力トレーニング」「一歩進んだ MS-Excel の使い方講座」といったテーマを組みました。２年生の授業ではＰＣを利用した授業が格段に増えます。１年生のうちに苦手とする部分を克服しておきましましょう。

※活動報告の詳細は学科ホームページ（http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/seminar/docu/）でご覧になれます。

■ 第５号は６月末日発行の予定です。原稿・写真を募集しています。編集委員へお問い合せ下さい。
■ 編集委員
〔学生〕3年 大沢悠一・橋本安菜・2年 中澤大輔・目野吉美
1年 白倉弘崇・室屋理恵
〔教員〕岡田　靖・伊倉史人

ドキュメンテーション　第４号
平成１８（2006）年１２月２５日（月）
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会
横浜市鶴見区鶴見 2-1-3（〒 230-8501）
☎ 045(581)1001（代表）発行責任者：長塚 隆
http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/seminar/docu/